

令和2年度 学校評価

伊予市立伊予小学校

【評価の基準】

- A：目標を達成 (8割以上が肯定)
 - B：おおむね目標を達成 (6割以上が肯定)
 - C：あまり達成できていない (6割未満が肯定)
- ※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【評価母体数】

教職員	23
児童	400
保護者	387
地域	31

【評価の基準・肯定割合】

- ◎ 8割以上肯定
- 6割以上肯定
- △ 6割未満が肯定

【アンケートの内容】

- ア：たいへんよい
- イ：よい
- ウ：あまりよくない
- エ：よくない
- オ：わからない

【目標値】 80%が肯定 以下同様

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察 ● ・ 改善の方策 ◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果 (%)					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣(1~3年生は30分以上 4年生以上は、学年×10分)以上学習する習慣が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者の評価が66%と低くなっている。児童は自主的には家庭学習をする習慣がまだまだ付いていないようである。教員はできていない子も声掛けをしながら学習習慣を付けようとしている。その数字も入って高くなっていると思われる。 ◆ 今後も学校での指導・家庭への啓発の両方を行い、学習習慣を付ける。 	教職員	◎: 90	15	75	10	0		
		発達段階に応じた表現力(話す・書く)が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者・児童は8割ができていると思っているが、教員は、発達段階に応じた表現力が付いていないと感じている。もっと力が付くようにとの期待が込められていると考える。 ◆ 授業で話す機会を増やしたり、書く活動を増やしたりし、力を付けていく。 	教職員	△: 52	5	47	43	5		
		学年に応じた漢字の読み書きの力や計算の力の基礎・基本がほぼ身に付いている。(漢字・計算の習得率80%以上)	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 漢字・計算のスキルテストの結果はどちらも8割以上となり、学期末にまとめを行うことで力が付きつつある。 ◆ 漢字の読み書き、計算練習を繰り返し行い、基礎・基本の定着を図る。また、火曜、木曜の朝の「学びの広場」の時間を活用し、表現力や読解力、基本的な学習内容の定着・向上を図る。 	漢字テスト	◎: 84.5						
	心の教育の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切に作る心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員・児童・保護者すべてが高い肯定率になっている。今後も道徳の時間・学級活動・教科等、いろいろな時間を通して続けていく。 	教職員	◎: 100	5	95	0	0		
		一人一人の違いを認め合い、人権を大切に作る集団づくりがなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な人権問題についての学習を通して、共に生きるために大切なことを学んでいるが、その学びと日頃の自分たちの生活上の課題を結び付ける具体的指導と保護者への説明が必要である。 	教職員	◎: 100	14	86	0	0		
	健康教育の推進	楽しく学校生活が送れている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 肯定率が非常に高い。感染防止対策のための休業期間を経て、再び学校という活気あるコミュニティに戻れた影響も考えられる。一方で心身の不調を訴え保健室に来る子どもたちもいる。 ◆ 全ての子どもたちにとって、学校が心地よい環境となるよう、日常の観察や教育相談、定期的な学校生活アンケート等を通して、児童の思いに寄り添いながら継続的に対応していく。 	教職員	◎: 100	32	68	0	0		
		「早ね、(低学年は9時、中学年は9時半、高学年は10時)早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 定着しているとは言えない。 ◆ 家庭の事情や個人によって背景が様々であるため、具体的な改善策を考えるためには、健康促進に関するアンケート調査が必要になる。学校だより、保健だより等で、家庭と共に規則正しい生活習慣が身に付くように指導をしていく。 	教職員	○: 76	5	71	24	0		
		外遊びや個に応じた体力づくり(マラソンやなわとびなど)で健康の保持・増進に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員・児童の評価が8割以上肯定的である一方、保護者は69%しか肯定していない。家庭において外に出て運動する習慣が付かず、家の中でばかり過ごしている子どもがまだまだ多いと考えられる。 ◆ 家で縄跳び等の運動を啓発する便りや頑張りカードなどをさらに工夫していく。 	教職員	◎: 95	24	71	5	0		
	学校関係者評価委員の所見	○ 中学校、高校と宿題が多くなる。小学校でも適切な量の宿題を出して基礎・基本を定着させてほしい。		学校の対応	○ 家庭と連携をとりながら、家庭学習の質を高め、学習習慣や学習内容の基礎・基本の定着を図っていく。							
		○ 道徳科の授業を大切にしたい。			○ 各学年週1時間の道徳科の授業を中心に、心の教育の充実をいっそう図っていく。							

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%				
							ア	イ	ウ	エ	オ
生徒指導	生徒指導の徹底	自分から気持ちのよい挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	B	● 児童は肯定的に評価しているが、コロナ感染予防対策を差し引いたとしても、十分にできていない。気持ちのよい挨拶を通して人と人を結ぶ心地よさを味わわせていく必要があると考える。 ◆ 児童が改善に向けて、自発的に活動できるようにしていく。学級で現状を話し合う機会を設け、挨拶を自分事として捉え、自分たちにできるめあてを設定する。児童会が中心となり、子どもたちによる工夫した挨拶運動に取り組む。	教職員	△: 39	4	35	57	4	
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	A	● 教職員・児童の評価は肯定的である一方、保護者の評価は低い。十分に対応できていない事例が多くあることを意識し、より緊張感を持った対応が必要であると考える。心の健康診断や日々の信頼関係作りを基盤に早期発見、早期解決に努める。また、教育相談員やスクールソーシャルワーカー等と共に対応していく。	児童	◎: 85	34	51	12	3	
特別支援教育	特別支援の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	A	● 学級担任の協力により、個別の指導計画の必要な児童に対して記録を残すことができている。適宜、保護者とも話合いの機会をとり、共通理解を図ることができるようにしている。	保護者	○: 61	13	48	33	4	2
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	● 通級指導教室・病院等と情報を交換し、支援に生かすことができた。教職員間でも、支援の方法について話し合い、よりよい支援ができるように努めている。	地域	◎: 84	23	61	16	0	0
研修	指導力の向上	実践力のある教師として、分かりやすく工夫した授業に努めている。	A	● 教職員は96%とかなり高い肯定率に対して、保護者はやや低く評価している。今年度は、参観日等の授業公開をする機会が少なかったためとも考えられる。 ◆ タブレットなどのICT活用に向けても研修を重ね、児童主体の楽しく分かる授業作りに努めている。	教職員	◎: 98	22	76	2	0	
		信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	A	● 高い肯定率になっている。学年を中心に、時には学校全体の組織で、一人一人の児童や家庭に応じた適切な対応に努めている。	児童	◎: 90	59	31	8	2	
		切磋琢磨する教師として、常に学ぶ姿勢をもち、自己を向上させようとしている。	A	● 高い肯定率になっている。今後も様々な校内外研修等を通して、共通意識を持ち、教職員一人一人の指導力の向上に努めていきたい。	保護者	○: 72	16	56	15	4	9
学校関係者 評価委員の 所見	学校関係者 評価委員の 所見	○ 挨拶が最近よくなってきた。公民館を利用する児童も挨拶がよくできている。	学校の対応	○ あまり挨拶ができていなかったが、学校評価の結果もふまえ、教職員が意識統一をして改善に取り組んでいる。学級や委員会話し合い、児童主体で改善に向けた活動を工夫していくことでよくなっている。引き続き努力していきたい。 ○ 不登校傾向の児童は増えている。保護者、スクールソーシャルワーカー、教育相談員等と連携をとって子どもや保護者のケアを行っている。相談機関等へのつながりは適宜行っているが、今のところ一覧表はない。学校に連絡をいただければ要望に合わせて関係機関とつながっていくことを学校だよりなどで知らせていきたい。 ○ 3月末までに一人一台のタブレットが配備される。WiFi環境が整備されてから本格的に授業で活用する予定である。タブレットを主体的・協働的な学習をするためのアイテムとして活用することを目指す。一人一台端末の活用のよさや目的などを発信していくのが最初の1年になる。家庭への持ち帰りについては、ルール作りなど必要でまだ先の話となる。オンライン授業についてもまだ予定していない。 ○ 3年生・4年生が外国語活動を週に1時間、5・6年生が外国語科を週に2時間行っている。学級担任が主となって授業を進め、ALT(外国語指導助手)は、発音や会話の手本を示すなど連携して行っている。今後もコミュニケーション能力を身に付け、生き生きと表現し合う児童の育成に努める。	教職員	◎: 100	30	70	0	0	
		○ 不登校の児童について保護者と連携をとって根気よく呼びかけてほしい。また、どこに相談したらよいか分からない保護者のために相談窓口の一覧表などがあるとよい。			児童	◎: 100	39	61	0	0	
		○ 一人一台端末が導入されるが、メリットとデメリットを整理して指導に当てる必要がある。			保護者	◎: 86	52	34	11	3	
学校関係者 評価委員の 所見	学校関係者 評価委員の 所見	○ 外国語科・外国語活動の授業の充実にも取り組んでほしい。	学校の対応	○ あまり挨拶ができていなかったが、学校評価の結果もふまえ、教職員が意識統一をして改善に取り組んでいる。学級や委員会話し合い、児童主体で改善に向けた活動を工夫していくことでよくなっている。引き続き努力していきたい。 ○ 不登校傾向の児童は増えている。保護者、スクールソーシャルワーカー、教育相談員等と連携をとって子どもや保護者のケアを行っている。相談機関等へのつながりは適宜行っているが、今のところ一覧表はない。学校に連絡をいただければ要望に合わせて関係機関とつながっていくことを学校だよりなどで知らせていきたい。 ○ 3月末までに一人一台のタブレットが配備される。WiFi環境が整備されてから本格的に授業で活用する予定である。タブレットを主体的・協働的な学習をするためのアイテムとして活用することを目指す。一人一台端末の活用のよさや目的などを発信していくのが最初の1年になる。家庭への持ち帰りについては、ルール作りなど必要でまだ先の話となる。オンライン授業についてもまだ予定していない。 ○ 3年生・4年生が外国語活動を週に1時間、5・6年生が外国語科を週に2時間行っている。学級担任が主となって授業を進め、ALT(外国語指導助手)は、発音や会話の手本を示すなど連携して行っている。今後もコミュニケーション能力を身に付け、生き生きと表現し合う児童の育成に努める。	地域	◎: 100	14	82	4	0	
		○ 外国語科・外国語活動の授業の充実にも取り組んでほしい。			児童	◎: 79	16	63	10	2	9
		○ 外国語科・外国語活動の授業の充実にも取り組んでほしい。			保護者	◎: 100	17	83	0	0	
学校関係者 評価委員の 所見	学校関係者 評価委員の 所見	○ 外国語科・外国語活動の授業の充実にも取り組んでほしい。	学校の対応	○ あまり挨拶ができていなかったが、学校評価の結果もふまえ、教職員が意識統一をして改善に取り組んでいる。学級や委員会話し合い、児童主体で改善に向けた活動を工夫していくことでよくなっている。引き続き努力していきたい。 ○ 不登校傾向の児童は増えている。保護者、スクールソーシャルワーカー、教育相談員等と連携をとって子どもや保護者のケアを行っている。相談機関等へのつながりは適宜行っているが、今のところ一覧表はない。学校に連絡をいただければ要望に合わせて関係機関とつながっていくことを学校だよりなどで知らせていきたい。 ○ 3月末までに一人一台のタブレットが配備される。WiFi環境が整備されてから本格的に授業で活用する予定である。タブレットを主体的・協働的な学習をするためのアイテムとして活用することを目指す。一人一台端末の活用のよさや目的などを発信していくのが最初の1年になる。家庭への持ち帰りについては、ルール作りなど必要でまだ先の話となる。オンライン授業についてもまだ予定していない。 ○ 3年生・4年生が外国語活動を週に1時間、5・6年生が外国語科を週に2時間行っている。学級担任が主となって授業を進め、ALT(外国語指導助手)は、発音や会話の手本を示すなど連携して行っている。今後もコミュニケーション能力を身に付け、生き生きと表現し合う児童の育成に努める。	地域	◎: 100	13	87	0	0	
		○ 外国語科・外国語活動の授業の充実にも取り組んでほしい。			児童	◎: 100	13	87	0	0	
		○ 外国語科・外国語活動の授業の充実にも取り組んでほしい。			保護者	◎: 100	13	87	0	0	

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%				
							ア	イ	ウ	エ	オ
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な危機を想定して避難訓練・防災訓練を実施している。今年度は、地震からの水害を想定し、運動場から校舎2・3階への二次避難も実施した。自ら考え行動し、自分の安全を守る意識が高まってきている。 ◆ 今後も様々な場面を想定した訓練を行うとともにしっかりと振り返りを行って話し合い、安全対応能力を高めていく。 	教職員	◎: 87	22	65	13	0	
		児童	◎: 92	62	30	6	2				
		保護者	◎: 81	16	65	14	2	3			
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の方々、PTA校外指導部等の協力で、まもる君の家とのつながりや情報収集に効果がある。 ◆ 今後も多くの目で子どもたちを見守り、発達段階に応じた指導により、児童の安全に対する意識を高める。安全な集団登下校の仕方については、繰り返し指導を続けていく。 	教職員	◎: 93	17	76	7	0	
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の点検や毎月の安全点検を確実に実施し、危険箇所については、管理担当者を中心に早期の迅速な対応に努めている。 ◆ 日々の施設・設備の安全点検や清掃、校内掲示の工夫により、環境美化、安全・安心な学校づくりに努めるとともに施設改善の要望をしていく。 	教職員	◎: 100	26	74	0	0	
					児童	◎: 91	56	35	6	3	
					保護者	◎: 92	28	64	2	1	5
					地域	◎: 95	58	37	2	0	3
保護者・地域住民との連携	地域に根ざした学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、例年どおりにいかなかったところもあるが、地域の方々のご協力により、地域の人・もの・自然と効果的に関わることができている。 ◆ 状況を見ながら、感染症対策をしっかりと行い、実施可能な方法を探り、地域の人材や教育資源を活用した教育活動の実施に努める。 	教職員	○: 75	9	66	25	0	
		児童									
		保護者	◎: 92	30	62	3	0	5			
		学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● ホームページで学校行事や各学年の学習の様子を迅速に更新し、情報を提供することができた。 ◆ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置により、学校の様子が分かりにくい状態であるので、今後も学校・学年だよりやホームページ等により、積極的な情報発信をし、教育活動への理解をいただく。 	教職員	◎: 91	41	50	9	0	
					児童						
					保護者	◎: 93	38	55	4	1	2
					地域	◎: 100	55	45	0	0	0
		幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ● 参観日や行事の中止、小・中別の運動会開催など交流ができなかったものも多いが、6年生外国語科の授業等、中学校と新たに連携できたものもあった。 ◆ 隣接した立地条件を生かし、密に連携を図ることで引き続き子どもたちの連続した成長の様子を見守り、指導、支援に生かしたい。 	教職員	◎: 86	9	77	14	0	
					児童						
					保護者	◎: 82	27	55	6	1	11
					地域	◎: 90	45	45	0	0	10
業務改善	教職員の負担軽減	勤務時間やワーク・ライフ・バランスを意識した働き方をしている。	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自身の働き方を振り返り、どんな仕事に多く時間を使っているか、改善できるかを考える。教職員としての職務・使命・責任と業務改善、勤務時間と余暇のバランスを大切にしていく。仕事を終える目安を達成度や時間で各自が決めておく。 	教職員	△: 59	9	50	41	0	
		早く退勤できる環境（職場）になっている。（時間的にゆとりがある。早く帰れる雰囲気がある。）	B	<ul style="list-style-type: none"> ● 超過勤務時間はわずかではあるが、昨年度より少なくなっている。肯定割合も約2割増えている。新型コロナウイルス感染症対策とともに業務改善への意識が高まり、行事や会議等が簡素化されたことも大きいと考えられる。 ◆ 更に行事の簡素化や会議の効率化を図り業務の改善を図る。 	教職員	○: 73	18	55	27	0	
		児童									
		ストレスの少ない働きやすい環境になっている。（精神的なゆとりがある。協働的な職場になっている。）	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教職員の心身の健康を維持、増進するために、改善策、代替案等を気軽に出し合える職員間の温かい協働体制づくりに努める。 	教職員	◎: 96	26	70	4	0	
					児童						
					保護者						
学校関係者評価委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> ○ 下校時、気分が解放されて小学生が道路を広がって歩き、自転車が通りかかったとき、不便そうにしている場面を見かけた。注意が必要である。 ○ 今年度はコロナ禍でいろいろな行事が中止や縮小されたが、来年度も状況に応じて対応していただきたい。 ○ 道徳科や外国語科、ICT活用などの授業参観の機会があるとよい。 	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ 下校時の交通安全やマナーについて話し合ったり、可能なときは下校指導を行ったりしてマナーを守って通行できるようにしていく。 ○ 今後も新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期し、確実な指導内容の習得、行事等の実施に努める。 ○ 来年度、状況を見ながら道徳科や外国語科、ICTを活用した授業なども見ていただけるよう参観日に予定していきたい。 							

